

2026年8月 東京地区百貨店売上高概況

2026年9月25日

I. 概 況

1. 売上高総額	1, 250億円余
2. 前年同月比（増減率）	5.7%（8か月連続プラス）
3. 店頭・非店頭の増減	店頭6.0%（92.9%）：非店頭2.1%（7.1%） （ ）内は店頭・非店頭の構成比
4. 調査対象百貨店	12社 22店（本年7月対比±0店）（前年同月比：±0店）
5. 総店舗面積	675,671㎡（前年同月比：0.8%）
6. 総従業員数	12,162人（前年同月比：-1.5%）
7. 3か月移動平均値	1-3月 3.2%、2-4月 5.0%、3-5月 7.5%、 4-6月 7.5%、5-7月 8.0%、6-8月 6.4%

【参考】2025年8月の売上高増減率は-2.3%

【特 徴】

8月の東京地区の売上高は5.7%増と8か月連続で前年実績を上回った。国内・インバウンド売上共に伸長し、時計・宝飾等の高付加価値商材が引き続き売上を牽引したほか、食料品や衣料品も好調に推移した。物産展や海外展等の食品催事も来店動機となり、集客に寄与した。具体的なアイテムの動向は以下のとおり。

衣料品(5.8%増)：低気温や雨天等の天候影響により盛夏商材の動きは鈍かった一方、気温差に対応可能なジャケット、薄手ニット、カーディガン等の羽織り物が好調に推移。その他衣料品(17.1%増)は一部寝具ブランドの価格改訂前の駆け込み需要があったほか、呉服が外商向け催事等で伸長。

身のまわり品(1.1%増)：国内・インバウンド売上共に、ラグジュアリーブランドのハンドバッグ等が引き続き好調に推移。スーツケースや婦人アクセサリーは旅行需要や訪日客需要を背景に伸長。

雑貨(10.3%増)：時計は外商向け催事等を中心に高伸。インバウンド需要も底堅く、美術・宝飾・貴金属全体で18.0%増と二桁増。化粧品は秋を意識したメイクアップ商品やスキンケア商品等が好調に推移。

食料品(7.1%増)：天候不順や価格高騰の影響により生鮮食品は僅かに前年を下回ったが、夏休みやお盆等の需要を背景に、菓子・惣菜は和洋菓子や弁当を中心に好調に推移。その他食料品では、物産展等の食品催事が賑わいを見せたほか、帰省や贈答需要により和洋酒が堅調に推移。

9月足元動向：前年比12.2%増(9/16時点)で推移。

【要 因】

- (1) 営業日数増減 30.8日（前年同月比 ±0.0日）
- (2) 入店客数増減（回答店舗数で見ると傾向値／前年同月比／有効回答数18店舗）
①増加した：8店、②変化なし：2店、③減少した：8店
- (3) 8月歳時記（夏休み、お盆）の売上（同上／有効回答数9店舗）
①増加した：1店、②変化なし：6店、③減少した：2店

東京地区百貨店 売上高速報 2026年8月

	売上高(千円)	構成比(%)	対前年増減(-)率(%)
総 額	125,021,840	100.0	5.7
紳士服・洋品	7,155,153	5.7	3.5
婦人服・洋品	18,429,466	14.7	5.6
子供服・洋品	1,555,560	1.2	8.9
その他衣料品	1,401,377	1.1	17.1
衣 料 品	28,541,556	22.8	5.8
身のまわり品	22,615,171	18.1	1.1
化粧品	12,528,255	10.0	4.6
美術・宝飾・貴金属	17,815,015	14.2	18.0
その他雑貨	4,267,043	3.4	-0.6
雑 貨	34,610,313	27.7	10.3
家 具	750,133	0.6	-7.9
家 電	1,572,248	1.3	23.7
その他家庭用品	2,764,723	2.2	-2.7
家 庭 用 品	5,087,104	4.1	3.3
生 鮮 食 品	3,138,385	2.5	-0.1
菓 子	9,221,382	7.4	12.7
惣 菜	6,518,953	5.2	7.8
その他食料品	8,228,519	6.6	3.4
食 料 品	27,107,239	21.7	7.1
食 堂 喫 茶	2,442,549	2.0	0.9
サ ー ビ ス	2,605,756	2.1	-8.4
そ の 他	2,012,152	1.6	-1.3

注) 構成比は計算処理上必ずしも100%にはなりません。

本統計には消費税は含まれておりません。

対前年増減(-)率(%)

商 品 券	905,037 千円	-11.1
従 業 員 数	12,162 人	-1.5
店 舗 面 積	675,671 m ²	0.8

営 業 日 数	30.8 日	前年	30.8 日
---------	--------	----	--------

Ⅱ. 商品別の動き

主要5品目は全てプラスとなり、雑貨は二桁増となった。
その他の品目は、婦人服・洋品が12か月連続、美術・宝飾・貴金属、菓子が13か月連続、化粧品が5か月連続でプラスとなったが、家具が4か月ぶり、生鮮食品が3か月連続でマイナスとなった。

【商品別売上前年比の寄与度とトレンド】

商品別	売上前年比 (増減率)	寄与度	トレンド
総額	5.7	—	8か月連続プラス
紳士服・洋品	3.5	0.2	2か月連続プラス
婦人服・洋品	5.6	0.8	12か月連続プラス
子供服・洋品	8.9	0.1	4か月連続プラス
その他衣料品	17.1	0.2	5か月連続プラス
衣料品	5.8	1.3	8か月連続プラス
身のまわり品	1.1	0.2	6か月連続プラス
化粧品	4.6	0.5	5か月連続プラス*
美術・宝飾・貴金属	18.0	2.3	13か月連続プラス*
その他雑貨	-0.6	-0.0	12か月ぶりマイナス*
雑貨	10.3	2.7	12か月連続プラス
家具	-7.9	-0.1	4か月ぶりマイナス
家電	23.7	0.3	2か月連続プラス
その他家庭用品	-2.7	-0.1	4か月連続マイナス
家庭用品	3.3	0.1	2か月連続プラス
生鮮食品	-0.1	-0.0	3か月連続マイナス*
菓子	12.7	0.9	13か月連続プラス*
惣菜	7.8	0.4	2か月連続プラス*
その他食料品	3.4	0.2	3か月ぶりプラス*
食料品	7.1	1.5	2か月連続プラス
食堂喫茶	0.9	0.0	2か月連続プラス
サービス	-8.4	-0.2	2か月ぶりマイナス
その他	-1.3	-0.0	5か月連続マイナス
商品券	-11.1	-0.1	30か月連続マイナス

(注) 化粧品、美術・宝飾・貴金属、その他雑貨、生鮮食品、菓子、惣菜、その他食料品については2006年1月から細分化した

お問い合わせは、日本百貨店協会 橘・青柳 まで
TEL 03-3272-1666 ホームページアドレス <http://www.depart.or.jp>